京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからず

人物管見（一）　片々生

▲曾禰荒助と金子堅太郎　が平田東助や、伊東巳代次や、井上毅等と共に伊藤公に仕へて憲法制定に從事したのは最早廿六年前の昔の事である、當時に於ては曾禰は金子よりも幾分劣つて居つた爲に金子より時々小言を言はれた形がある、亦伊藤の御覺へも金子の方が優つて居つたのである、併し是は曾禰が金子よりも氣骨の稜々たるものがあつたからである、金子は唯一片の循吏で氣轉が利き且つ泰西の學問に通じて居つた爲に伊藤に重寶がられたのである、曾禰は其點になると到底金子には及ばないのみならず、時々不言實行的に伊藤の命令に反くこともあつたのである、然るに拘らず曾禰を[illegible]として置たのは佛蘭西仕立の何處となく洒落淡泊の所があるからである、曾禰の多趣味にして洒落の態あるは佛蘭西仕込にあるのである、佛蘭西に居つたものには何れも皆風流の傾がある、西園寺然り、光妙寺三郎然り、中江篤介然り、松田正久尊者然りである。

▲井上毅と伊東巳代治　には曾禰も何となく頭が上らなかつた樣な觀があつたと云ふことだ、巳代治の犀利なる舌鋒には曾禰も隨分參つたのである、平田東助とは其時から馬が合つて居たと云ふ事である、其時分には寧ろ東助は荒助よりも兄分の格であつたと云ふ事だ、巳代治や、堅太郎が識者振つて荒助に對するときに、小癪にさはることがあると、所謂不言實行的に蠻勇を揮て此二人者を驚かした事も少くなかつたとの事である。

▲憲法發布議會開設　の世となり金子は上院の書記官長となり、曾禰は下院の書記官長となつた、此際山縣内閣の爲に中島議長を甘く繰りたることが、深く山縣將軍に氣に入られ、尋で代議士となり品川彌二郎、西郷從道の知遇を得て國民協會に入黨して山縣派の爲に貢献したのである、夫れや之れやで知らず〜の中に、伊藤系に離れて山縣系に移つたものである世の中は何にが幸福になるか判らぬものである、山縣系に移り替つた事が曾禰が幸運を得て立身を速ならしめたのである。

▲若しも曾禰にして　依然金子等の如く伊藤系にのみ屬して居つたならドウであらふか、幾度も内閣大臣となり、伊藤公の後を襲ふて今日統監の榮職を贏ち得たであろふか、見よや金子も伊東も曾て大臣とはなつたが、現在の境遇はドウである、皆逆境に沈淪して居るではないか、伊東は今は伊藤系を離れて山縣系に片足突込で居るが、是が爲に幾分金子よりは前途の望は多いのである（つゞく）

文苑

●勇士　青楓

今方、二人の女が、互に手と手を握らん前にして門を出た、芳香紛々たるバイオレットの余香が、風に揺れて、兩女の後姿を恍惚と見送て居た、年若き看護婦の鼻を撫かしたのである。

「本統に可愛相ですわねヱ」

「そうね、何ば親の利益だからつて、彼樣な美い容貌をもつて居るのに、朝鮮三界まで來て、蝎甫になるなんてねヱ」

「而してね、如何しても快くならなければ郷國へ歸るんですつて……」

「そう―、氣の毒なのね」

吾輩は、この單なる會話によつて、端なくも、今の女は、千軍万馬、孤軍奮鬪したる蝎甫軍の勇士であるといふことが解つた、そして、この強者等、天より受けたる美貌を永劫に續けよかしと希ふのであらうか、よる年波と、夜毎日毎にうくる、大いなる負傷とは、遂に憐れ果敢なくも、錦を飾る故郷の空ならで、全身病毒を抱いて、歸るやうな破目に陷るであらうと思ふと、吾輩一掬同情の淚を禁するを得なかつた。

●別世界の缺點　三枝

晝は暑いが夜は涼しい之れで京城の夏は凌げるのだ、終日濕なす汗を拭ひつゝ簿書堆裡に埋頭し夕方仕事が濟んで家に歸る頃は苦熱漸く薄らぎ下婢は浴衣を出し行水を用意して待つて居る一汗流して膳に就き冷切つたビールを仰る時の心地といつたら何ともいへない折柄葱に通ふ涼風がソヨ〜と肌を襲ふさ生氣頓に加はり恰かも別世界に入るの感がする但眞ん向ふの便所の臭氣が時々鼻を衝くのが缺點だ

（新刊紹介）

●婦人界　口繪數葉何れも優麗内容は依例賑やかなり小谷文學士の「余の眼に映する若き婦人」佐治氏の「女子は日常如何なる事を修養すべきか」等に次て廣津柳浪氏の小説「隣同志」は本誌の出色文字なり（一卷三號十錢東京日本橋區金港堂）

●銃獵界　獵期に非ざれば讀むべきもの從て少なし唯「銃外銃言」「狩獵殺生例を破す」等は聊か耳を傾くるに足るべし（五卷第六號十錢横濱本町金丸銃砲店）

●月報　最近に於ける貨幣、預金、貸出金、爲替受拂、韓國國庫、日本金庫、各地金融概況等を詳記せしもの有益なる參考たるを失はす（四十五號韓國第一銀行總支店編纂）

佐倉宗吾（百廿四）　眞龍齋貞水講演

サア是から堀田領の者は、宗吾の事を一日も忘れず、切々と勵いて居りますから、茲に堀田御領主は、御精神を改めて下されば御領分は何事もなく、無事太平に治まつたのでありますが、所がなか〜御改悛にならぬ、宗五郎の一周忌が相濟んで仕舞ひますと、そろ〜以前の收立に復つて來る處よ三年目になると、一二箇所は宗吾の御願ひ通りに行つて居られるが、殘餘は皆以前へ復つて仕舞ひましたから、再び堀田領の百姓は「ア、情けねヱ事だ、宗吾どんが此通り生命まで捨てさつしたのに又こんな事に成つた日にや迚も耐らねヱ」と、蔭では云ふが今日はもう宗五郎の御處刑を見て居りますから、誰も彼も恐れて何とも云はない、仕方がなしに苦しい内を稼いで、御運上を納めるやうにしてゐる、是で堀田家が安穩に濟みますなれば、誰も彼も心配する事はないが、日本開闢以來、義民の巨魁と謂はれ、身命を抛つて、多くの農民の苦しみを助けやうと云ふ、其精神は容易なものでないから、爾う云ふ偉い精神は、決して消滅するものではない人間の靈魂は不滅でございます、身体は朽ちるが、必ず靈は此世に止まると云ふ位のものでございます、斯樣な事を申し上げますと何か迷つた御話をするやうだが、決して左にはあらず　餘事を申し上げて甚だ恐れ入りますが、明治三十七年征露事件が起りまして以來、恐れ多くも我が天皇陛下は大御心を惱ませ給ひ、又恐れ多くも皇后陛下にかせられても、御躬自から白木綿を御裂き遊ばして、國家に勤むる兵士に下し置かれると云ふ程に御心配遊ばさるゝと云ふことは、吾々臣民言語に盡し難き程に、恐れ多い事でございました、然るに愈よ波羅的艦隊が、日本海へ進んで來ると云ふことになりますと、御上は勿論下臣民に至るまで、此事に就いては非常の心配でございました、其時に皇后陛下には葉山御用邸に渡らせられたのでございますが、一夜故坂本龍馬先生が、恐れ多くも皇后陛下の御寢室の御次の室へ兩手を支へ「恐れながら此度の戰爭は、海陸ともに百戰百勝たゞ波羅的艦隊が參りませうとも、必ず我が艦隊のため全滅さるゝ事疑ひなし恐れ多くも御心を惱し給ふこと勿れ」と奏聞を遂げたる御夢を御覽遊ばされた、有繋叡明に亘らせらるゝ皇后陛下も、御夢とは申しながら、御汗を御流し遊ばした、すると其の翌晩、又も同じ時刻に於て、坂本龍馬先生が、其處へ出て、前夜と同じことを奏上した御夢を御覽遊ばされた、そこで皇后陛下も餘りの事に御不思議に思召され、香川皇后太夫に、坂本龍馬と云ふは、何う云ふ男かと御下問があつた、精忠なる香川皇后太夫、八方に手を盡して、終に井上侯爵の許から、坂本龍馬の寫眞を御取りになりまして、其御寫眞を持つて、陛下の御前に罷り出でました所、陛下には恰度、御庭前を御散歩で在らせられる、そこで御机の上へ、其御寫眞を置きまして、御庭前で此事を申し上げやうと、ズウッと御庭の方へ廻つて御出になると、陛下は既う御居室へ御入御相成りましたから、太夫は又御庭からズウッと廻つて來て、御次の室へ兩手を支へ、御機嫌を伺ひ參らせた時に、突然陛下より「坂本の寫眞は、何人が持つて參つた」と仰せられた、そこで香川太夫樣は、何うも不思議な事だ、既う何人か是が坂本の寫眞と云ふ事を、陛下へ申し上げたのか知らんと思召して、段々御伺をすると、何人も申上げたのでない、御夢の内に御覽になりました、坂本龍馬の姿であるから、是が坂本の寫眞と御得心遊ばされて、御尋ねになつたのであつた、そこで香川樣も驚嘆した位、陛下は坂本龍馬は、如何いふ人物と云ふ事とは御存知がない、唯夢の中で、坂本の姿を明白と御覽になつた、そこへ本物の寫眞を御覽に入れたから、阪本の寫眞は何人が持つて來たかと、御下問あらせられたのでございます

▲夏季飲料　ブランデー・ブドー酒・ウイスキー・シガー・シャンパン・キリンビール・金線印サイダー・シガレット　卸小賣
洋酒食料品　雜貨　金銀器美術品
直輸入商　京城本町二丁目　同三丁目　辻屋
本店電話一四八番　支店電話二六六番

朝鮮紳士錄

京城理事廳認可　豫約特價金參圓　總クロース金文字入

豫約募集

本書には統監府軍司令部師團司令部各理事廳鐵道管理局通信管理局各民團各商業會議所韓國政府中央地方諸官衙各國領事館職員錄を併載致候

申込締切期日　八月廿五日
送本期日　九月十五日

登載事項　政治家、軍人、官公吏、經濟財政家、實業家、工業家、農業家、醫師、辯護士、教育家、宗教家、美術家、新聞記者、銀行、會社、學會、協會、寺院、敎會、倶樂部組合

發行所　京城西小門通　京城新報社

豫約申込所
本町二丁目　日韓書房
本町二丁目　文林堂
新王城前　盛文堂
北署安洞　大韓書林
中署廣橋東邊　滙東書館
中署罷朝橋邊　中央書館
南大門通　義生盛號

本紳士錄（交詢社式）には韓國各地在住の日韓淸英米佛獨其他紳士の全体を網羅致候へば公私實務者の座右に缺くべからざる要書に有之候

豫約募集

巻煙草

京城　廣江商會　電話五七六番

廣告

龍　最上醬油

前統監樞密院議長公爵伊藤博文閣下新任統監子爵曾禰荒助閣下送迎の爲來る十二日午後五時より和城臺公園に於て大園遊會開催致候條御贊成の諸彦は來る十日迄に會費金二圓相添京城居留民團役所内送迎會事務所へ御申込相成度候
尚服裝は羽織袴又はフロックコートのこと
明治四十二年七月二日
送迎大園遊會事務所

齒科專門醫院
京城本町二丁目百卅銀行横
齒科醫勳六等　野田應治
（電話一〇四七番）

▲角帯半衿帯上 其他 組類各種

京城明治町一丁目 るり徳商店

京城新報

伊藤前統監を迎ふ

滯在中の言説

三年有半に亘りて保護政治の爲め盡瘁せられたる伊藤公爵は統監の印綬を曾禰子爵に讓り、至高顧問府の長となる、是れ帝國の爲にも、公自身の爲にも其所を得たるものにして最も喜ぶ可き事なりとす。然るに今や公は遠旅の勞を厭はずして韓皇室に暇乞をなし、且つ政務の引繼を爲すが爲に來韓せらる、余輩は公が辭任當時に於て此際特に來韓せらるべき必要なきことを述べ置きたり、然れども公の性情として此儘に過ぎ去るを潔しとせざるか、或は暇乞且政務の引繼以外に來韓するの必要ある爲なるか是れ素より余輩の知る所にあらざるも、必ずや來韓せらるゝの必要あるならむ、余輩は敢て公が功名を完ふする爲なりとは云はず、果して然りとすれば余輩は公が遠來の勞を多謝せずんばあらず。

而して公が韓京に於ける滯在日程を見るに殆ど留送別の宴會のみにして、一日も他の事をなすの餘裕なかるべしと思はる、局外より觀察すれば公は宴會臨席の爲に來らるゝの感なしとせず、惟ふに是れ公の本意に非ざるべし、斯くては啻に政務の引繼其他の要務を果す能はざるのみならず、高齢なる公の健康の爲にも宜しからざる也、故を以て余輩は公が斯ることに重きを置くことなく、長途の勞苦を平靜に慰するの後徐ろに其要務を果されんことを望む。

余輩が此際公に對して更に望む所は各宴席に於ける公の言論也、統監の相續者曾禰子の威望をして重からしむべく言説すること也、公は較もすれば故意に非ざるも、後進者を予供扱にすることあり、是迄も邦人間ならば唯後進者の反感を買ふに過ぎずと雖も、若しも統監の相續者に對して斯る言動あらば韓人の輕侮を招き其統治上に影響する所決して尠しとせず、而して更に注意を乞はざる可らざるは、韓人に對する言質を乃ち約束的の言説をなして、相續者の手腕を拘束せしめざる事也、公は言説に注意し且つ辭令に巧なりと雖も、所謂猿も木より落つる譬の如く、往々言界を逸して言質を取らるゝが如きことなしとせず、之が爲に公自身の苦みたることなきに非ざらむ、公の言論は最も重きをなす、其在任中と今日とに決して徑庭あるなし、公が此際に於て取るべきことは成るべく相續者の威望を重からしめ、其自由手腕を充分に發揮せしむる事なりとす、公の公明正大にして寛容なるが保護政治の完成を希望するの赤誠は思はず此苦言を呈するに至る、公の寛宏雅懐は必ずや此擧に出づるならんと雖も、余輩は余輩の卑言を咎むることなく其心事を諒せらるゝならむ、余輩は以上の心事を以て伊藤公を迎ふ。

本山大毎社長

余輩は茲に大阪毎日新聞社長本山彦一氏を歡迎するの光榮を有す氏は本邦操觚界の先輩にして又大阪紳士界の重鎭なり氏が今回の行は半島を經て滿洲に出でバイカル湖畔に涼を納れたる後莫斯科に入らるべしと云ふ時、正に炎署、余輩は君の健康を祈り同時に其視察の結果が直間接に邦家を益せんことを祈る

驛屯土引繼難

驛屯土引繼難頻々として傳はる余輩は本問題に就て東拓に對し已に業に苦言を呈し盡したり今は將た何をかいはん只善後策を講ぜんことを待つのみ氣の毒なるは實に出張員諸子なり

北京電報

▲滿鐵取返建白 汝世昌は攝政王に建白書を上り吉長鐵道を私營とし滿鐵をも取り返すべしと論せり

▲兩江の巡邏船 錫東山省總督は松花江黑龍江に巡邏船を置き警備の任に當らしむることに決定せり（五日午後東京經由）

東京電報

▲瀆職議員判決 日糖事件に關する瀆職議員の判決は本日左の如く決定したり

●重禁錮十ヶ月● 松浦五兵衛、長谷川豐吉、横田虎彦、臼井哲夫、西村眞太郎

●重禁錮八ヶ月● 荻野芳藏、澤田寧、今田勝太郎

●重禁錮五ヶ月● 栗原亮一、森本駿、横井時雄、村松愛藏、江崎禮二

●重禁錮四ヶ月● 佐藤虎次郎、奥野市次郎、島津良知、神崎東藏、安田勳、田村惟昌、木村半兵衛

●重禁錮三ヶ月● 小澤愛次郎、關野善次郎、中村忠七

右の中三年間執行猶豫となりたるものは既報の如く森本駿、奥野市次郎、島津良知、木村半兵衛、關野善次郎、中村忠七今井勝太郎の七名なるが追徴金は左の如く申渡されたり

五千五百圓松浦五兵衛、二萬圓臼井哲夫、八千三百圓西村眞太郎、三千圓栗原亮一、二千圓森本駿、七百圓神崎東藏、西村眞太郎、六百圓木村半兵衛、西村眞太郎、四百圓關野善次郎、西村眞太郎、二千圓横井時雄、澤田寧、松浦五兵衛、二千五百圓村松愛藏、澤田寧、松浦五兵衛、千四百圓荻野芳藏、澤田寧、松浦五兵衛、八百圓奥野市次郎、澤田寧、松浦五兵衛、千六百圓島津良知、澤田寧、松浦五兵衛、三千圓長谷川豐吉、佐藤虎次郎、小澤愛次郎、澤田寧、松浦五兵衛、一萬八千百五十圓澤田寧、松浦五兵衛、一万圓横田虎彦

因に既記川島の外長谷川も無罪となれり（三日夜東京發）

▲中銀と取極書 韓國中央銀行新設に關し日韓兩國政府の間に取極書を交換する筈なるが其内容は五ヶ條より成り日本人が韓國に於て中央銀行を設立する特權を有する事及び韓國中央銀行條令は韓政府より發布するも該條令は日本政府の許諾を經ずして濫りに條令を變更する能はざる事等なり（四日午後發）

▲聯絡船座洲 關釜聯絡船薩摩丸は三日夜山陽棧橋沖合に於ける浮標の連鎖切斷せしため巖柳島の淺瀨に座洲したり

▲鐵道連絡會議 日露鐵道連絡會議は良好なる結果を得しも尚ほ議すべき點あり八日第二回會議を露都に開くべしと

▲文學博士號授與 近日細川潤次郎氏以下五名に對し文學博士號を授與さるべし

▲答禮大使歸國 清國答禮大使載振殿下は昨夜支那公使館の晩餐會に臨まれたるが七日皇室の御待遇を辭し歸國さるゝ豫定なり

▲露觀光團歸國 露國觀光團一行は今夕新橋發歸國の途に上る筈なり

▲博士號授與者 新文學博士號授與のことは別電の如くなるが其の後着したる電報に依れば右授與者は細川潤次郎、吉田東伍、關根正直、久米邦武、森林太郎、本居豐穎の六氏なり（以上五日午後發）

雜報

●伊藤公の入京 伊藤公には既記の如く五日午前九時三十分馬山發古谷秘書官小山技師並に同伴の日高内大臣森宮内大臣の兩秘書官及途中迄出迎ひたる勅使李琬均、劉燦の二氏李總理、石塚長官代理鍋島外務部長、國分秘書官、荒井次官、三浦、龜山の兩理事官中山書記官、若林警視總監を從へ沿道日韓民の歡迎を受けつゝ五日午後七時南大門驛に着したりと之より先き同驛にては日韓の大國旗を交叉し構内天井には万國旗を吊るし美觀を添へたるが出迎人の重なるものは即ち韓國皇族、曾禰統監、大久保軍司令官、西嶋師團長各部大臣日韓文武官並に民間の有志者等は構内一定の場所に整列して各團体及び各學校生徒は驛前に整列して出迎ひたるが沿道の各戸は國旗球燈を掲げ歡迎の敬意を表したり

●親刈式の狀況 既記の如く韓皇には親刈の爲め五日午前九時陪從の諸官を從へ昌德宮出門九時四十分東籍田に着便殿に入御三十分間休憩の後十時十分親刈を始められたるが今其の模様を聞くに籍田令たる中村農務局長は耕籍使趙農相を經て親刈の儀を奏上するや韓皇には百官を率ゐて親刈あり、續いて皇族總代義親王大臣總代趙農相、親任官總代及勅任官總代等各一名從刈を爲し終つて親刈の麥を容器に入れ中村籍田令此を捧持し精耕籍使を經て御覽に供し爰に全く親刈の式を了したるが韓皇には十一時四十分同所發輦十二時洪陵に着閔妃の陵に參拜あり午後二時三十分還御あらせられたり

●遞相と平元線 後藤遞相は滿洲並に韓國に對する經濟施設上敦賀を利用して敦賀元山間の航路を確實にし平元線を布設する方經濟政策上當を得たるものとし努力しつゝありといふ

●統監邸の晩餐會 伊藤公入京と同時に統監邸にては統監府各參與官李柳の二勅使大久保軍司令官西島師團長各部大臣同次官局長約六十名を招き午後八時より晩餐會を開き藤公辭任の挨拶ある由

●學校施行規則改正 各官立學校及普通學校施行規則中改正の件は兩三日中學部令を以て發表さるべきか其改正の要旨は休暇の短縮、教監の加除等なりといふ

●觀察使會議延期 觀察使會議は豫報の如く五日より開催さるべき筈なりしも當日は單に各觀察使一同會合何事も議せざりしが伊藤公も入京の事とて或は延期さるゝやも計られずといふ

●中銀條例内容 韓國中央銀行條例は既に草案を脱し次回の參與官及大臣會議を經て廿五日頃迄に發布さるゝ筈なるが今其内容を聞くに初め當局者に於ても最に發布されたる東洋拓殖會社法と同じく日韓兩國政府の法律に依り設立する計畫なりしも斯くては我帝國議會の協贊を得る等長日月を要し到底今年中に運ばざるべきを以て我日本政府は別項の日韓取極書を交換し條例は便宜上韓國の法律を以て發布せしむる事とせる由但し其設立に關しては我日本の商法中株式會社に關する條項を適用すと條例は全文五十條にして資本金は一千萬圓株主は日韓兩國人に限り東拓の如く持株に制限を附せず又兌換券發行に關する規程は別に之を定めず該條令の中に規定しありと因に該條例は我臺灣銀行條例に準じ規定せる由にて中央銀行が六歩の配當を爲し得る迄韓國政府は補給金を與ふべし

●駐韓將校行賞 韓國駐劄軍にして暴徒討伐隊に參加し勳功ありし准士官以下々士卒に對する行賞は卅日を以て全部終了發表しつゝあるが長谷川大將以下各將校に對する分は既に調査決了し目下御裁可奏請中なれば一兩中に發表の運びに至るべく尚引續き行賞さるべきは憲兵隊、京城衛戍病院、鏡城衛戍病院其他の將校同相當官以下後方勤務者を合して八千四百餘名なりと

●一銀上半期純益金 第一銀行韓國總支店の本年度上半期の純益金は既に調査を終り東京本店に向つて報告をなしたるが其金額は三十八萬三千余圓なりと

●中銀と補給利子 中央銀行設立後に於ける株主への配當利子は銀行の業務發達して毎年六分を支拂ひ得るに至る間は韓國政府に於て年六分即ち百圓に付六圓つゝを一般株主へ支拂ふ筈なり

●黃海方面漁場調査 黃海道方面に於ける免許漁業出願地調査の爲め客月來出張中なりし李農商工部飜譯官遠山技手等の一行は調査を終り四日歸任す

●一銀の立礎式準備 既記の如く第一銀行の新築費は百餘萬圓を要し京城第一の大工事なるがこれが立礎式は洋式を採り又晝餐會は炎暑の折柄なれば地下室の全部を用ひ京城官民の重なるもの約百余名を招待する筈にて目下準備中也と

●下旬の外國貿易 稅關局にて調査したる六月下旬の外國貿易旬報左の如し

區別	本旬 本年分	前年分
輸出品價	三四〇、二六七圓	三四七、九六三圓
輸入品價	一、〇一八、六二三	九五八、六五九
合計	一、三五八、八九〇	一、三〇六、六二二
輸入超過	六七八、三五六	六一〇、六九七

●郡守の推薦と區域 從來郡守の候補者は各觀察使より道内の適任者を推薦せしめつゝありたるが斯くては人材登用の上に大不利益あるのみならず且つ韓國の秀才は京城に來集せるを以て今後は觀察使として區域を限らず治ねく人材を推薦せしむることゝなす筈にて別項の觀察使會議に諮問の上決定するに至るべしと

●本山大毎社長の入京 本山大阪毎日新聞社長は四日仁川に着同夜は仁川有志家の催しに係る歡迎會に臨み五日朝八時南大門着出迎の檜崎特派員と同道直ちに中島司馬之介氏宅に入りたるが滯京日數は約一週間の豫定なりと

●贊化病院の發展 軍醫北村徐雲氏今回其筋の許可を得て贊化病院に出診せらるゝことゝなりたるを以て右の爲同北村及古城梅溪の兩氏は三日夜京城ホテルに知友有志家を招き披露の宴を張られたり當夜出席の人々は西島師團長、藤田軍醫部長、日疋經理部長、高階大韓醫院長安東漢城病院長其他の紳士紳商六十有餘名にして北村、古城兩氏の挨拶に次て西島師團長、藤田軍醫部長、日疋經理部長、高階大韓醫院長、熊谷民團長、峯岸京城新報社長の卓上演説あり頗る盛會なりし由左に西島師團長の北村軍醫紹介の辭を掲ぐ

陸軍一等軍醫正北村徐雲は明治二十年成績優等を以て東京帝國醫科大學を卒業し業卒るや直に撰ばれて縣立宮城醫學校に教鞭を執り專ら内科及婦嬰科を擔任し同二十一年四月以降轉して福島縣立病院副長の職を奉し專ら患者診療に任するの傍ら福島縣管内を巡視し一般地方開業醫を巡講指導して醫業の開發に盡瘁し次で廿二年四月以降韓國釜山共立病院の傭聘に應じて振腕を振ひ氏の診療を請ふもの門前常に市をなし名聲赫々たるものありしは今尚釜山市人の記臆に存する所なり廿五年四月以降郷里に閑靜を求め老母侍養の傍ら病院を私設して患者の救濟に從事し遠近より來り治を乞ふもの多し廿六年七月感ずる所あり當時數百圓の收入を擲ち毅然身を軍籍に投し陸軍軍醫として國事に盡さんとし意を上司に告ぐ當時當局に於ては氏の決心を嘉みし過するに異例を以てし特に階級一級を進め採用せられたり爾來熱誠國家に貢獻する所あり日清日露の戰役に於ては偉大の効を奏し且多大の傷病者を診療し益々實驗の基礎を强固にせり陸軍出身以來累進衆を擢んで一等軍醫正に進み頗る名望あり氏は是より先き二十四年十一月より二十六年十二月迄二箇年間千葉醫學專門學校に於て内科を擔當し醫學博士井上善次郎氏に代て多數の學生を養成せり目下韓國典醫たる朴宗桓氏の如きは實に氏の薫陶に依れるものなりと云ふ氏は又日露戰役後自費を以て獨國に留學し同國知名の碩學を師とし專ら内科及病理解剖を修め歸朝後直に第六師團軍醫部長の職を奉じ今日に及べり尚氏は洋行中の研究事項に就き數篇の論文を起草し歐洲學界に公にせられ醫界に稗益を與へたり今回北村が土地の病院に出診するは陸軍大臣の許可もありたる事にて全く研究の爲にて營利の爲に非ざれば其邊の處は諸君に於て誤解無からんことを希望す云々

●一銀の支店長會議 第一銀行は中央銀行に其債權債務を一切讓與する筈なるが度支部に於ては引繼ぎを速きつゝあれば第一銀行にても其準備として來る十日より向ふ約一週間釜山、大邱、馬山、木浦、群山、元山、咸興、城津、鏡城、平壤、開城、鎭南浦、仁川、安東縣の十四支店長を京城に召集し市原總支配人の經過報告及財産の調査をなす由

●本山大毎社長の訪問 五日入京の大阪毎日新聞社長本山彦一氏は同日午前十一時檜崎特派員と共に曾禰統監を訪問せり

●天一銀行の增資株 從來十五萬圓の資本なりし天一銀行は五十萬圓に增資する爲め去る六月十日より同二十五日迄增株式を募集したるが財界不振の今日なるにも拘はらず四千五百五十六株の應募高に達したる由にて殘額二千四百四十四株は政府に於て出資する筈なりと

●經濟研究會の擴張 經濟研究會にては各地方に支會を設置することに内定し目下支會總則の起草中なるが來る十一日の通常會に於て決議の上發表すべしといふ

●神宮奉齋會支部 龍山萬里倉契孝昌園東端國有林内に神宮奉齋會支部を設置せんと目下出願中なり

●大毎社長の來訪 大毎社長本山彦一氏は五日午前十時本社を訪はれたり

●熊本縣人會開會 去る三日午後七時より花月に於て林市藏菊池武一兩氏の歡迎を兼ね同縣人會を開きたるが會する者六十余名深水清氏幹事總代として開會の辭を述べ林菊池の二氏之れが答辭を述べられより酒宴に移り種々の餘興等ありて主客歡を盡して退散したり

●高橋農園の試食會 辯護士高橋章之助氏は一昨日曜日知友諸氏を龍山なる同氏所有の農園に招き所產の茄子西瓜等を料理して試食會を開きたり

●碧巖畫伯の歸國 虎繪を以て有名なる横地碧巖畫伯は久しく滯京揮毫に應じつゝありしが三日歸國の途に就きたり

公人私人

▲塚本信次（統監府特許局審査官） 四日滯京を命ぜらる

▲福羽恩藏（宮内府御苑事務官囑託） 四日退京東京へ

▲納富四郎（淸國陸軍大學教習） 原金に止宿中の處四日釜山へ

▲村幸八（德島縣水產組合長） 浦尾へ投宿中の處同日平壤へ

▲由木玄次郎（同縣水產組合評議員） 同上

▲井深彥三郎（奉天民長） 浦尾へ投宿中四日釜山へ

▲中小路正雄（濟津理事官） 四日入京巴城館へ

▲天野喜之助（群山理事官） 同上不知火へ

▲久水三郎（元山理事官） 同上

近事片々

▲伊藤 公來る三年有半に亘て心血を注ぎたる韓國に名殘りを惜まむ爲か老体御苦勞

▲韓皇 東籍田親刈式は昨五日行はる文武百官扈從し威容堂々たり韓國空前の盛事也

▲聲に 韓皇后の水原模範農場の巡覽あり皇室と地方人民とは漸次接近す喜ぶべき也

▲唯此 際努むべきは地方人民窮迫の狀態を救濟する事也是は最も急を要する問題也

▲此救 濟に就ては新統監腹案ありとの事なれば早晩事實となり現はれ來るは必定也

▲韓國 沿岸の漁民等トロール網の反對運動を起さんと目下協議しつゝありとは眞乎

▲トロ ールは韓海の如き魚族に對しては不可也之に反對の起るは寧ろ至當なるべし

▲爲政 は總て最大多數者の最大幸福を標準とせざる可らず獨占は政治の主意に反す

▲李學 相は近來頗る憂色あり之れ學相更迭說ある爲也と報ずる者あり果して事實か

▲朴泳 孝近來亦野心勃發して頻に何事か策しつゝありとの說あるが之も亦些と怪し

▲曾禰 統監の歡心を買はんが爲に朴泳孝賴に邁り居るとの事なり是も唯だ噂のみか

▲フェ アバンクス氏の宣教師評は少々觀察を誤り居らざるか到底首肯する事能はず

▲外國 宣教師は統監府と協戮して韓人敎育に從事す其効果頗る良好なりとは可怪也

▲統監 府と協戮して敎育の普通を計れば結構なれども結果往々反對に走る事なきや

▲獨逸 ツェペリン伯の空中飛航器は驚く可き成功を告ぐ卅七時間九百四十哩を走る

▲此飛 行艇が先つ世界に於ける最優のものたらむツェペリン伯の名は萬世に傳らむ

▲英國 市民此獨逸飛行艇の成功に恐慌を起す神經過敏の樣なれども强ち無理ならず

▲茲に 於て英國市民は空中のドレツドノートとして飛行艇製造に熱中し來ると云ふ

▲脫營 兵森川松藏釜山にて憲兵に捕へらる首領幸德秋水に送る書狀は矢張り松藏式

▲亡命 して世界の人たらんとし捕はる鐵鎖重く身自由を缺く斷頭臺は名譽の戰塲と

▲社會 主義の害毒今や兵營内に入る斯る非國民的の輩は嚴重に處分して根絶すべし

●財務官會議終了 全州財務監督局に於ける財務官會議は去廿五日を以て全部終結せ

●昌城金山と佛國人 平安北道昌城の金山は佛國人サンタレル氏の採掘に係り不日

●六百余平方韓里の區域なりと云ふ 昨年來決定したる鑛

●龍湖學會と學校 龍湖學會にては去る學會所屬學校設立の

●師團團体長會議 第六師團管下に於け

●各地憲兵管區長 憲兵管區長は會議の爲め上京海州憲兵、相原春川憲兵、小栗原州

るか同會議に引續き全北道地方委員會も開かれ[illegible]由也同管內に於ける地方委員會は來八月光州財務署內に開かるべしと

採掘[illegible]すべき筈なるが同氏は今般同國の技師ルフエーヴルを派遣したる由にて同山の鑛區は巾四十韓里、長六十韓里の內千

歷合に伴ふ應令乃至當類の跡始末は目下內部に於て各地方官に命じて調査報告せしめつゝあれば近中適當の處置を見るべしと

任に就き協議する處ありたるが其結果數に學校設立に要する義捐金を募り三萬圓余を得たるも現金未收に付三回に分納せしむる

る各部隊長聯隊長各工兵隊長は五日より向ふ三日間暴徒討伐に關し第六師團司令部に會議を開く由

第五、立川兩城憲兵、鈴木[illegible]憲兵の各管區に[illegible]れたり

長四日七京城[illegible]山中旅館に投宿せり

●韓皇韓皇后の下賜　過日仁政殿に於て

●配達出拂　午後七時三十分

●藝妓芝居の紛擾

▲井門樓主重傷を負ふ
▲火事とカチとの間違

去る三日歌舞伎座に於ける中檢番披露劇は南山町の松葉亭と永樂町有明樓の合併演劇なりしが舞臺の手間取りし爲め大詰の狐火の段に至り十二時を過ぐる事既に二十分となり此上仕續くる時は果てしなき爲め臨監の警官は檢番取締人の井門樓主井門榮太郎（六三）に中止を命じたり、されば井門も止む事を得ず狂言方に向つてカチ〳〵と合圖したり此カチ〳〵は木を打てと云ふ符牒なりしも多數の見物人はカジ（火事）と聞き間違へ一時**總立**となりて**騷動**したるも漸く其れと判明して鎭まりしものゝさて時間經過の爲め演劇は中止されたり、然るに松葉亭の方にては井門が**故意**に人騷がせを爲して自家の演劇を**妨害**したるならんと**誤解**し松葉の主人は井門に向ひ覺へて居ろとの**捨臺辭**を殘して立歸りたるが此時井門は二重臺舞の上に立ち居たるに突然松葉亭と印の入りたる半纏を着じたる若者舞臺に飛上り一口二口言ひ爭ふ內井門の胸倉取つて突飛ばしたる爲め老人の事とて足元狂ひ筋斗打つて座に轉落し脊髓をシタヽカ打ちたる爲め一時**人事不省**に陷りしも附近の人々介抱して安東病院に擔ぎ込み漸く蘇生したるも老人の事とて爾後の經過頗る惡敷く家人は何れも憂愁に沈み居れり而して此方の加害者は其儘現場を**遁走**したるも長野刑事の爲め捕はれ目下南部署にて取調中なるが同人は廣島縣大手町七丁目當時龍山元町四丁目島山良吉方同居料理人杉山里吉（三〇）とて日頃**松葉亭へ出入**の者にて同亭の手傳ひに來り居りしなりと、當日は同人の外に松葉亭と印の入りたる**尻切**れ半纏を着せし若者多數場內の各所に散在警戒し居たるが或は見物中喧噪する者を鎭めんとの準備なりしならんも招待客に對して禮を失する者なりと**憤慨**せしものもありしとか尙ほ之れが爲め一昨日井門の演劇は中止して一日休業し昨日花月の出演にて終局を告げたるが之れが爲め三千八の招待に對し千三四百を入場せしめしのみにて半

數以上を謝絶するに至りしは當番の立場として不都合ならずやと同業者間の紛議を起し居れりと云ふ

●天草丸より投身

▲觀察使に遺書を渡す

仁川警察署に一昨日黃海道觀察使趙義淵氏が去る三日海州より天草丸にて仁川に向ふ途中知人なる忠清南道藍浦右邑面李承輝（三一）と云ふが同船し京城に行くとて隣室に座し共に飲酒したる後水を飲みに行くとて書面を趙氏に渡し室を出でたる儘歸り來らざりしかば其書面を開封したる所入水する旨を認めたる遺書なりしより船中の大騷ぎとなり船を引き返して取調べたるも屍体は遂に判明せざりしと

●美當一調の乘込

▲明七日より開演の筈

關西浪花節界の頭梁新物讀みの名人として名聲高き熊本の美當一調は屢々來韓を報じたるが愈昨夜乘込みたる筈なれば本日一日を準備に充て明七日より旭町舞歌伎座に於て開演する筈なるが開場の上は定めて大當りを極めるならん

●待合の紛紜落着

當地待合業者間の惡風に關する記事過般の本紙に現はるゝや當地の同業者は大に狼狽し同業十四名當時臨時總集會を開き協議の上大に改善を施すと當時に取締の改選を爲す事となり其結果從來の取締り此の花鮮職し春日の主人橋本之れに代りしが同人は曾て臺灣新竹縣新竹及び台北淡水港等に於て貸座敷業を營み多年是れが取締を爲せし經驗等あれば斯かる方面には頗る熟練し居るを以て今後同營業に就ては益々改善を見るに至るべしと

井門樓蝶々　一昨四日の藝妓芝居に阿古屋と京の君、皆鶴姫とを引受け同樓の立女形として好評なりしに中止せしは殘念

●伊東文夫の渡韓

昨年來韓して各所に好人氣を博したる新俳優伊東文夫は爾來九州各地巡業中去る五月筑前道方に於て火災に罹り衣裳其他の全部を燒盡したるも奇捐に富みし同人は是れが爲めには一日の休業もせず爾來引繼き同地方面に開演中なりしが今回一先づ歸韓し中央劇場の腕利連を差加へて大一座を組織し本月下旬釜山座に乘込み其れより漸次當地にも來る筈

●壽座の棟揚げ

改築中なる當地壽座は來る十二日棟揚げを爲し直ちに造作に

着手する筈なるが今後約三十日を費さば全部終了するに至るべしと云ふ

●巡査殺の暴徒逮捕

客年一月江原道春川郡華川邑に於て韓人巡査鄭鳳善を慘殺したる暴徒の巨魁春川郡北面居梁石奉（四十）崔白然（四十）李德景は其後巧みに踪跡を晦まし居たるが數日前春川警察署在勤岩原市太郎、小西幾次郎の兩巡査の爲めに逮捕さる

●鷄夫婦の迷子

一昨日午前十時頃牡牝二羽の雞明治町二丁目の四角に迷ひ居たるを南部署に持歸り保護中なり心當りの者は申出づべしと

●綾衣拍子の歸國

新町南山樓の綾衣は昨日を以て年期を終り原籍橫濱市西戶部町へと歸國したり

●仁川藝妓の枕比べ

オツト違つた腕比べ六月中の十五番以內は左の如し
吉彌、梅八、笑子、稲太郎、一富久、清次、五郎、榮吉、富美子、一昇、一勇、勝利、小鶴、君之助、加代

◎時事俳評　ちはる

△辭職後の前統監來韓
うらぼんや亡者の供養小忙はしき
△新統監の蹤道速成
涼しさや小驛飛び越急行車
△東拓と驛屯土引繼難
蜩やかしましゆうして日の暮るゝ
△若しも余にして統監たらば…
無造作なもの〳〵一つ〳〵一夜酒
△京城紳士の遊興振
田五兵衛の振りたもしろき踊かな

●公判だより

明七日法務院に於ける公判は左の如し
一民事（午前十時）　一、上訴人堀力太郎被上訴人申泰翊間土地所有權確認及秋收返還請求二、賣掛代金請求上訴人廣橋龜十郎被上訴人島末慶太三、破產決定抗告抗告人酒井政平被抗告人株式會社大韓天一銀行
一刑事　傷害被告人神原七五郎、賭博被告人米谷增吉

●中檢披露劇を觀る（三）

▲松葉と有明樓の出演

二日目は松葉亭と有明樓の合併出演であつた當日は土曜日の事とて前日よりも人足早く七時過早くも大入札を掲げた、式三番引拔暁闇と太十は間に合ずして見落し三幕目の重の井子別れの幕明きから見物した、第一一妓に賛辭を與へたいのは太郎の三吉である容姿の可憐なるが既に看觀の同情を惹きしかも本人中々の達者で少しも隙間を見せない●八重松の重の井元より達者にコナシたるも聊か三吉に喰はれたる感ありし●八々の八十左衛門其他の端役何れも此の小役の爲め喰つて除けられた●此太郎は次幕より常に端役を引受けて大に一座の活動を助けて居たが年は少ないが實に末頼母しき妓であるの四幕目の逢丸、光松の六助は其作りから態度甘く六助の人物に適り中々上出來であつた只惜むらくは休格の割合に臺詞の押しが利かぬ清華亭の三次位の調子を持たしたらと然日に思つた、勇次の礼園は豫想外の出來であつた第一調子のキビ〳〵したのが氣に入つた其れに作りも宜かつたが少しく色氣に表情が乏しかつたのは惜しい事だ、胡蝶の斧右衛門も先づ成効の方である其他は御若勞、終りの十種香は八重松の出し物だけに同妓の八重垣姫は甘くコナシたが作りの古いのは本人れ年の加減だから是非もないが勝頼から四つ五つは慥かに上に見られた其上八々の濡衣が古いと來て居るから對照が面白い勝頼は恰かも二人の年增女に引張帆になつて居る樣で可笑かつた、政子の勝頼は二人の姐さんが兩方に控へて居た爲めか恐ろしそうな態度で恰かも薄氷を踏むが如く一向ハキ〳〵とせず殊に調子のシツカリせぬは何んとも氣の毒の至りである光松の謙信も頗る若作りで一向見榮はなかつたが此妓が出ると舞臺は引締る、太郎と初子の注進は甘いもの殊に太郎の如き、花道の引込など中々樂入でなく實に好い格恰を極める返す〳〵も感服の外はない、尙は此幕は出語りで終りの狐火杯も隨分大仕掛けを爲し一日中の見せ場なりしも時間の都合にて中止せしは殘念であつた（もの字）

井門樓雛子　一昨四日藝妓芝居に岩永と牛若との大役を引受けて評判好かりしに中止となりしは惜しき

◀平民文庫▶

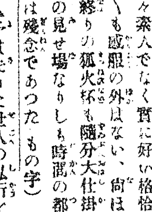
▲予は先きに世人の私行を訐き又は商店商品の惡評を試みて其人其家の信用を害せんとする人あるを慨して其人々に一考を求めたり然るに何々子は予に寄するに『惡事を成す』云々の語を以てす思ふに予は予の言を誤解せる爲めならん人誰か過ちなからん其過を以て直ちに惡事となし之を摘發し其名聲を毀け以て自ら得と呼ぶは妄の甚だしきものならずや（はの字）▲三日夜の中檢披露の藝妓芝居松葉亭の演技は滅茶〳〵に終つて怪我人もあつたとか粹な稼業の粹な催しに此の殺風景な出來事のあつたのは殘念だナア（へ字）▲源氏節美根松の一行は龍山打揚げ後は杳として消息を聞かないが何所へ行つたのかしら（開度生）▲愈々青物市場は明治町に引き越しましたね從つて玉子屋、鷄屋なども引けるだらう賑になつて嬉しいうれしい（小供）▲旭町の素人角力は盛んなものだ僕も一番相撲たいが對手になる樣なのが居ないで困る（力自慢）▲皆强さうででしょう（小僧）▲藝妓芝居で初めて清華亭の鳴

吉さんを見て妙な氣になりましたけれども金がないので何うもならん許りでなく妻子ある身のだから……併し私が斯う思つて居るとだけは思つて下さい（葉山生）▲恐れ入りました次第です（小僧）▲酒を一本天麩羅二人前飯一人前に香物まで食つて四十五錢で濟むだのが松金で、酒を三本にザル二枚玉子一個を食つて松葉では同じく四十五錢好き嫌いもあるが僕は同じ價なら前者を取る、併し遠いので困る（新來生）▲京城から龍山へ行く道筋に屋臺店の氷水だの何だの澤山あるが彼れでも商賣になつて行くものかしら（不審生）▲相談の相談▼について格別取り急いだ事柄がありませんから本日は相談を休みます尙は愼重に審議考査の必要がある問題につきては御返事が一兩日遲れる事があるかも知れませんから前以て御含み下さい、序に相談と質問とを取り違へない樣に願います（其係り）

●天氣豫報（自四日午後六時至五日午後六時）

北東の風晴
四日　最高溫度（華氏）八四、四
　　　最低溫度　六〇、一

廣告



自轉車大安賣
角商會代理店
前川自轉車店
京城南大門橫

移轉廣告
本組合事務所從來南山町一丁目此の花內に設置致し置き候處今般都合により支那領事館通り春日內に移轉仕候間此段廣告候也
京城支那領事館通
待合組合事務所
電話九七〇番

增築落成御披露
新座敷落成
室內裝飾並に設備完全
諸器具清潔にして御待遇の叮嚀親切は弊店の特色とす
京城永樂町一丁目
待合　嬉野

マルシイド營材料
新町居福原支店
京城永樂町
電話壹八九番

●眼藥の大王は永樂町二丁目丸一藥房發賣の富川氏製劑の眞珠白龍丹に限る七十二種の眼病全愈せさる者なし試用の分に限り定價の半額に割引仕候

▲花も實も又香ひも朝鮮斯界の覇王▼
月刊朝鮮　第三卷第五號　七月號
口繪、時事評論、論說、研究、富源、人物評判記、雜纂、文藝、成功談、實業資料、朝鮮問答、雜報、時事日誌、韓人三面、風聞錄、商店評判記、此他曾禰新統監及中央銀行に對する世論と各道書記官の韓內地談
發行所　京城本町　朝鮮雜誌社
發賣所　京城本町　日韓書房
●其他韓國及日本各地書店
▲定價一部二十五錢半箇年一圓五十錢▼

歐米直輸入
東京高崎製金庫並に戶扉
東京岡崎製喞筒
ジユタンリノリユーム
西洋家具室內裝飾品
卓子椅子各種
ストーブ及石炭
最新式謄寫版
コツピープレス及復寫紙
ホツチキス自働紙綴器
衛生器各種
專賣二重瓶及回轉式喞筒
特許消火器
ヒグタ印油
建築金物類

京城支那領事館通
清韓洋行
（電話四九四番）
各カタログー申込次第呈送す

御禮廣告
榮太郎儀昨三日歌舞伎座に於て負傷の際は早速御馳付種々御看護に預り候のみならず態々御見舞を辱ふし難有奉深謝候就ては早速御回禮可申上筈の處引續き混雜罷在候間不取敢紙上を以て御禮迄如斯に御座候
七月四日
井門榮太郎
家族　同
親戚　一同

來れ海國の少年　讀め愛國の少女　東洋幼稚園主　岸邊福君　編輯

日本少年　第八號　七月一日發行
◎日本少年記者讀者玉座を拜觀す……
◎僅に十一歲の少年學問修業の爲單身米國へ渡る……
◎善行を表彰された十八名の少年少女
◎二百の少年軍艦相撲を觀る
▲面白不思議の實驗の水瓜、陸の胡瓜と海の胡瓜
▲空中飛行艇少年號……月亭
▲少年銷夏文藝　募集
▲犬の友達　草水
▲死を決して大氷山を踰ゆ……
▲歷史小說少年小說等滿載……
◎半年增刊共七冊七拾錢（郵稅共）　▲郵稅共拾一錢

少女の友　第八號　七月一日發行
▲藥局生をしながら通學する少女の實例……
▲奉公をして親の看病をした孝女の美談……
▲氣味惡かつた蒙古旅行中の一夜……（鳥居君子）
◎黑姬物語　花野の泉
◎家庭騷動　美登子樣
◎少女小說　若き尼
日本橋高等女學校教員余子こう　日本女子商業學校講師渡邊白水
▲郵稅共拾一錢　半年增刊共七冊七十錢郵稅共

幼年の友　第七號　七月一日刊行
◎子が可愛ば菓子代に幼年之友を買つてやりなさい
◎岸邊福氏は話や給て子供を嬉ばせ遊ばせる術に於て日本一
一冊十錢郵稅一錢　半年分郵稅共五十八錢

東京京橋區南紺屋町二十番地　實業之日本社　電話新橋（七八四）　振替貯金（二千六百）　各書肆各雜誌店

各種洗濯石鹼專門製造販賣
用途——陸軍、鐵道、船舶、鐵工、鑛山、水道、諸工業用

京城旭町二丁目
(電話九七三番)
朝日石鹼製造所

▲無料紹介欄▼

人事部

●求妻 前途ある望の青年月收○容色の美醜ミ貧富を問はず心身の頗る健全にして篤情心の厚き淑を周旋す 姓名在社(一)

●事務員 希望知人年二十八多年會社の本店營業部に勤務の經驗あり志想堅實尤も商的人物薄給にても不苦 姓名在社(一)

●求妻 年齡廿歲より廿六歲迄位にして品行方正身体強健なるもの男三十歲には統類なし月收六十圓 氏名在社(二八七)

●正派薩摩琵琶研究會 授教希望の方は申込あれ 京城壽町一ノ八番戶 會主 有馬良熊(二八八)

●望當料 當生年十九保證人あり給料不要 姓名在社(二九一)

中學校卒業廿歲會計事務に心得あり會社及商店に被雇たし 氏名在社(二九二)

廣岡孝一君に告ぐ 住所番戶委細御通知ありたし(係)

物件部

●土地貸物數十個家屋賣物澤山あり 本町民團役所前 佐々木

●貸家 南山町二丁目にて八疊と外に四間あり家賃面談 氏名任社(二八九)

●大弓場貸地、旭町一民團役所燒跡附近一帶夏店にて遊歩に最適當なる場所に大弓場の貸地あり 氏名在社(二九〇)

廣告

梅毒專門
皮膚病一般
痔 注射療法(不要入院)
京城南大門朝市場櫻家旅館內
神戶資生院長
出張診察所
電話三百十二番
院長府立大坂病院專攻
元兵庫縣立福原驛梅病院醫長
醫學得業士 蘆田耕平
○資力乏しき病者には割引又は施療を爲す

入院隨意
內科 外科
小兒病
梅毒淋病
京城壽町三丁目
高井醫院
電話(二一六)
院長 陸軍軍醫正 高井貞治

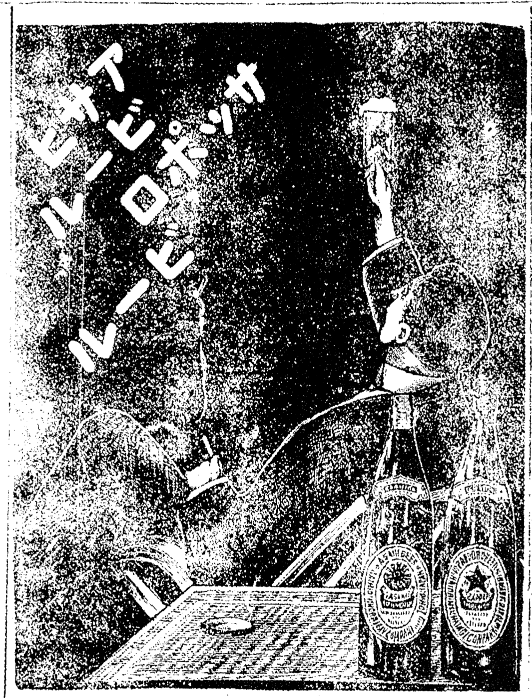
蘭、萬年青、西洋葵、花類、盆栽販賣及貸鉢
貸鉢料一ヶ月卅錢
並に野菜類卸小賣
龍山鐵道官舍第八十九號前
菜花園

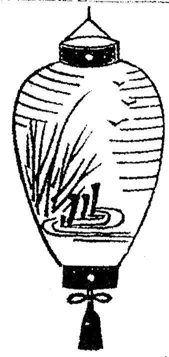
九州セメント
上等生石灰販賣
京城南山町一丁目電話三四四番
山村商店
龍山元町一丁目 電話三四八番
中村運送店

名譽銀牌受領
キリンビール

登錄商標
外用 治癬藥(ちそうやく)
塗擦
最大瓶 一圓二十錢
大瓶 六十錢
中瓶 三十錢
小瓶 二十五錢
○せんしんたむし○なます○せにがさ○いんきんたむし○しらくも○くさかぶり○みずがさ○みずむし○ひせんがさ○がんがさ○しもやけ○うるしまけ
其他皮膚病一切に特効あり 右は弊店世に傳ふる處の靈藥にして皮膚病一切に用ひて卓効あり從來此により回春の幸福を得たるもの遠近老若其數頗る多し今回大方諸君子の懇請默しがたく材料を精選し瑰近の醫學に照らし加味調劑を正確にし官許を得広く世に發賣せんとす世の皮膚病に悩める士女願はくは一度本劑を試用し効果の顯著なるを御實驗御高評の程奉願上候
調劑發賣元 仁風堂 浦尾きち
韓國京城南部壽町一丁目浦尾旅館

○訂正改版發賣○
帝國新聞社長鄭雲復著
韓日英新會話
●總クロース上製 頗美本全一冊 定價金壹圓貳拾錢 郵稅金八錢●
日韓會話書多々出版されたるも未だ完全なるものを見ず本書は故大家博言博士イーストレーキ先生の原案に習ひ編纂せしものにて著者多年米國及日本に遊び研究の結果こゝに本書を著わす內容は初學者に最も解り易く國語の假名より示し單語、會話及文法等數萬語一々三ケ國語對照、日本振假名を付しあれば如何なる初學者にても本書を繙けば短日にして獨學以て三ケ國語に通する事を得乞ふ一本を座右に備へられん事を
發行所 京城本町二丁目 電話百四十五番 振替口座九〇五九
日韓書房





●第一回二百張賣切
●第二回二百張限り
利益元價の
貳拾五錢
此外極上等品種々あり
右は數に限あり御希望者は早く御申込被下度候
東京市麴町區一番町廿九番地
藤井兵太郎
京城旭町一丁目中島横
藤井出張所

京城南山町四丁目一番戶(花月の通り)
支店開業御披露
藪蕎麥支店
(電話九一一番)
今般右の處へ支店開業仕候間本店同樣御引立御愛顧の程奉希候
本町六丁目
藪蕎麥本店
(電話八四七番)
開業御披露として支店に限り三日より五日まで三日間定價より二割引にて差上可申候

代理店
新井藥房本店
京城南大門通三丁目(九千百四十六番)
新井藥房第一分店
京城本町三丁目(電話四七八番)
新井藥房第二分店
京城南大門外

改築落成
本月六日開業
旭町三丁目
三日月湯

內國製產品博覽會(於四十二年大阪市)名譽大賞金牌受領
第六回製產品博覽會(於四十二年京都市)名譽金賞受領

特約店(いろは順)
本町六 田中支店 電話七六四番
本町四 前田酒店 電話二三七番
本町五 酒井政平 電話八六四番

●●衛生を重する人は本器を試よ●●
●專賣特許寺尾式蠅取器は……從來の蠅取器の如く蠅の入を待つ必用なし
●專賣特許寺尾式蠅取器は……如何なる高所にても使用せらる、便あり
●專賣特許寺尾式蠅取器は……從來の蠅取器の如く酒等の必用なく少量の石油にて事たる
●專賣特許寺尾式蠅取器は……從來の蠅取器より便利にて價格又低廉なり
●●經濟を重する人は本器を試よ●●

寺尾式ハイ取器
發賣元
京城南大門外古市町四十二番戶(停車場前)
三友商會

明治廿年七月創立
資本金一千萬圓
東京火災運送海上保險株式會社
京城代辨店 本町四 山口吳服店 電話九
事務所 京城本町二の三 電話一〇六〇番

營業科目
和洋紙類 印刷附屬品 印刷インキ 和洋書籍 防腐デシン 穀物食鹽 諸染料類
諸官衙御用品調達
各學校御用品調達
委托販賣
東京 ランバーグ商會代理店
東京 中外アスファルト株式會社代理店
東京 千代田生命保險相互會社代理店
東京 博文館發行書籍特約店
東京 金港堂發行書籍特約店
釜山 臺鹽合資會社食鹽特約店
藤田合名會社
本社 京城明治町二丁目 電話二三〇番
出張所 東京京橋區南鍋町一丁目十番地 電話新橋三九六二

大韓國陸軍特定御用
清香 滋養 牛乳
京城
荒井牧場
電話三五六

▲清潔の下宿▼
客室の清潔ミ調理の美味ミ御扱の懇切こを特色ミして下宿營業仕候間賑々敷御投宿の程御願申上候
壽町二丁目十番戶橫小路(元花屋跡)
▲懇切の下宿▼
かめ屋

待合貸席
月の家
本町五丁目三八
電話一〇七四

心身堅固意志多年爲斯道雖於徵與旨恍然似有得者距離推斷吸吸茫洋辯愈温購素面輕徵也
易斷 相談 教授 通信判斷一件一圓特別二圓
京城本町五丁目
三一館

日本郵船株式會社
瀛船出帆廣告
貨物及船客取扱店
郵回漕店
電話三九

仁川海岸通
神戶行
……丸 七月四日午後三時
高砂丸 七月 日正午
大連、大沽、牛莊行
……丸 七月二十日午前五時
大連、大沽、牛莊行
酒田丸 七月二十二日正午
●釜山出帆、元山、清津、浦鹽行
立神丸 七月七日午後
御注意 御乘船ノ際ハ税關波止場ヨリ本船迄送迎船ニテ御送リ可申候送迎船ハ本船出帆ノ約五十分前ニ解纜ノ事

●新聞料 一枚金二錢 ▲一ヶ月前金五十錢 ▲三ヶ月 ▲六ヶ月前金貳圓 ▲一ヶ年
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行金十五錢 ▲四號活字十九字詰一行金二十錢

發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬
發行所 京城新報社
電話六六三番